

研究分野		授業科目名				科目責任者	
形態系分野		腫瘍病態治療学特論Ⅱ				(永坂 岳司)	
開講年次		共通／専攻／選択		単位数			
1,2		選択		2			
<b>目的</b>							
(1) 腫瘍免疫を軸にした新規診断・治療を開発するため、がん局所および担癌病期に伴う全身的病態を腫瘍因子および宿主因子の両観点から理解する。 (2) その理解に基づいた新規治療の開発研究を創設する。 (3) 研究倫理と非臨床試験、臨床試験について理解する。							
<b>授業到達目標</b>							
(1) がん化学療法および分子標的治療の理論、創薬を説明できる。 (2) 新規治療を立案し、解説できる。							
<b>授業計画</b>							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	第1週	水	18:00-19:00	岡脇 誠	講義	[抄読会]	がん病態と腫瘍免疫について基礎的な文献を紹介する。 [場所:本館棟6階カンファレンス室5]
2	第2週	水	18:00-19:00	永坂 岳司	講義	[抄読会]	家族性腫瘍とゲノム医療について基礎的な文献を紹介する。 [場所:本館棟6階カンファレンス室5]
3	第3週	水	18:00-19:00	永坂 岳司	講義	[抄読会]	分子標的とがん治療について基礎的な文献を紹介する。 [場所:本館棟6階カンファレンス室5]
4	第4週	水	18:00-19:00	岡脇 誠	講義	[抄読会]	がん病態と緩和ケアについて基礎的な文献を紹介する。 [場所:本館棟6階カンファレンス室5]
<b>評価方法</b>							
(1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 ただし、特論Ⅰ・Ⅲで紹介したものは異なる論文(症例)であること。 ※2月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。33頁:単位履修方法参照。							
<b>課題(レポート等)に対するフィードバック</b>							
講義の際の討論をもってフィードバックとする。							
<b>教科書</b>							
指定しない。下記、参考書を参考にしてください。							
<b>参考書</b>							
ISBN-9784524237883, 新臨床腫瘍学 ―がん薬物療法専門医のために, 日本臨床腫瘍学会, 南江堂, 2018 ISBN-9784431550303, Immunotherapy of Cancer, 山口 佳之, Springer, 2016							
<b>準備学習(予習・復習等)</b>							
(1) 自身の研究に関わる最新の論文を読み、最先端の知識を得ておくこと。 (2) 経験した症例から問題点を明らかにしておくこと。 (3) 毎回の講義後も提示論文や症例を復習すること。							
<b>修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b>							
(1) 評価方法に従って進める。 (2) 論文の理解度, 討論内容を評価する。 (3) 課題を探究し, 仮説立脚, 検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉することが修了認定・学位授与の必要要件であり, 本授業はその能力を向上させる。							
<b>注意事項・メッセージ</b>							
がんを免疫で治すことを目標に、ともに研鑽しよう。							